

# 令和7年度 松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	68	52	46	7.7	11.0	学校	521
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	71	67.7	57.7	57.6	50.7	57.5	5.4	4.4	11.0	8.8	4.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	76	66.3	45.6	58.3	49.7	52.6	6.4	4.9	7.7	3.6	4.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	75	63.3	60.7	56.8	65.2	69.0	10.2	2.9	7.9	4.3	4.1
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	67	125.7	114.2	177.0	101.1
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	75										
2年 男子	学校	28.11	22.78	42.61	50.53	75.64		8.04	185.91	18.14	38.29
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	42.61	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	24.05	21.37	45.78	47.54	53.24		9.19	165.78	10.68	46.75
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 松虫中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

★1年生 チャレンジテスト および チャレンジテストプラス

<国語>

【成果と課題】

平均点が0.2ポイント上回る形となった。内容別平均点を見るとほとんどの項目で平均を超えるが、『言葉の特徴や使い方に関する事項』は平均を下回る結果となった。また解答形式として、記述の項目で平均を下回る結果となった。

【今後に向けて】

記述の正答率を上げる必要があり、校内の定期テストでも記述における無回答が目立っている。この対策として、文字数制限に縛られず、回答を促し、無回答率を減らそうと考える。

<社会>

【成果と課題】

平均点が市平均より2.4ポイント上回る形となった。領域では地理分野と歴史分野共々平均を上回り、分野に関してのバランスもとれていた。ただし、校内の定期テストで課題となっている記述式の平均正答率は、3.4ポイント市平均を下回る結果となり、次年度に向けての課題として残った。

【今後に向けて】

授業において、単元ごとに要点や重要ポイントを振り返る時間をつくるなど、授業計画の組み立てを考え直していく。また、問題演習を重ねる時間も増やす必要がある。

<数学>

【成果と課題】

府平均より0.1ポイント上回り、領域別では数と式、図形の領域が府平均を上回った。しかし、関数の領域が府平均を下回った。グラフの知識・理解に課題がある。

【今後に向けて】

関数の基本的な知識の再確認をし、式とグラフの関係性についての理解を深めていく必要がある。

<理科>

【成果と課題】

市平均を2.2pt上回った。しかし、分野ごとにみると粒子分野が-4.5pt、生命分野が+2.8ptとなっており、得点率に大きなばらつきがみられた。特に、また、上位層の得点に下支えされている感が否めない。

【今後に向けて】

「粒子分野」の復習を丁寧に行う。また、授業のメインターゲットをやや下にシフトし、小テストなどを通して基礎知識の定着を図る必要がある。

<英語>

【成果と課題】

大阪府平均を3.8ポイント上回った。聞くこと分野で大きく府平均を上回ることができたが、読むこと分野でわずかに府平均に届かず、課題が見えた。

【今後に向けて】

読む力をつけるため、帯活動で短文読解を取り入れる。記述式の問題でも得点できていたので、今後は生成AIも活用しながら書く力の向上も図りたい。

令和7年度 松虫中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

★2年生 チャレンジテスト

<国語>

【成果と課題】

全体の平均点は、+1.8点だった。また両観点とも府平均を上回っているが、問題形式を見ると記述式が平均を下回ることから、「書く力」を伸ばすことが今後の課題である。

【今後に向けて】

高校受験では、記述問題だけでなく条件作文が出題される場合もあるため、日々の授業の中で要約や短文などからまずは取り組ませ、書く力だけでなく思考力も高めていきたい。

<社会>

【成果と課題】

全体の平均点では、1.3点上回る結果となった。分野で見ると地理と歴史の両分野とも平均を上回ったが、地理分野は辛うじて0.3点上回った状態で、来年度の高校受験を見据えたときに地理の力の底上げは必要だと考える。選択・短答・記述の問題形式ではバランスよく平均を上回った状態であった。

【今後に向けて】

来年度は3年生となり、授業の軸は歴史と公民になる。その中で地理分野の復習が最重要課題と考えるので、年間の授業計画のなかで、如何に全体の復習時間を確保できるかが大事なるので、授業進度は注意しながら計画を進めていきたいと考える。

<数学>

【成果と課題】

府平均より3.3ポイント上回り、領域別、観点別、問題形式別、の全てでも府平均を上回った。しかし、すべての領域で府の正答率を下回っている問題がある。来年度の高校受験を見据えたときに、全体的な復習が必要であると考える。

【今後に向けて】

継続して計算力をつけ、授業進度に注意し、復習の時間をとりながら苦手分野の理解を深めていく必要がある。

<理科>

【成果と課題】

全体の平均点は+3.0点だった。また、「領域」「観点」「問題形式」のいずれも平均点を上回ることができた。しかし、ほかの分野が平均点より+1点以上取れているにもかかわらず、「地球分野」の均点は+0.1点だった。

【今後に向けて】

全体的によく取れているが、「思考判断表現」や「記述式」の問題にまだまだ伸びしろがあるので、その力をつけられるように、自ら考えなければ解けない演習を行う時間を増やしていきたい。

<英語>

【成果と課題】

全体の平均点は+0.8点だった。観点別にみると「思考・判断・表現」が府平均を0.1点下回っており、問題形式別でも記述式の問題で0.3下回っていることから、やはり思考を問われる問題に課題があることがわかった。

【今後に向けて】

知識・技能を用いて解く力についてはついてきているので、思考を問うような問題を毎時間意識して取り組ませることが必要がある。たとえば自分で内容を読んでまとめたり、リテリング、行間を読ませたりする活動を多く取り入れていきたい。